

■訃報

八回生 宍戸(伊藤) 清子様 12・07・18没

一九九四年の復活第一回東京同窓会からご出席なされ、小学校唱歌の合唱のピアノ伴奏をお願いしたのが始まりで、翌々年合唱隊が出来てからも担当を続けて下さいました。

千二校・大手前高女時代から伊達しづ先生の高弟で、神戸女学院専門部ピアノ科に学ばれ音楽教育にも熱心なお方でした。今日まで懇親会の合唱が続いているのも初期における宍戸様のご功績によるものです。二〇〇五年ご出席後はご病気がちで治療生活をなされておられました。

会員よりの宍戸様追悼文

本当によく心をこめた伴奏を勤めていただきました。合唱隊一同で心からの哀悼の意を表しましょう。御霊天国でやすかれと祈りあげます。17友野信善

宍戸様にはコーラスの伴奏で色々とお世話になりました。お近くでお人柄にも触れさせていたただいていましたので、大変に残念に存じます。千里山会を立ち上

げてくださった先輩方を失う度に寂しさを感じ、同時に千里山会を若い世代に引き継いで行くという我々の責任を一層強く感じております。18寺澤美代子

十三回生 清水 達夫様 12・12・11没

一九七一年本会旗揚げの「千二校同窓生の集い」から参加され、一九九四年に復活してからも常任幹事として千里山会の発展に尽くしてくださいました。会誌にも度々ご寄稿いただき、四号の「ふれあい」・五号の「追想 昭和十年代」は戦前の千二校を知るのに貴重な名文です。二〇〇七年総会ご出席後は健康勝れずご療養なされておりました。

千二校時代は体育の万能選手で、昭和十六年中百舌の府下小学校対抗陸上大会では、千二校団体優勝の主力選手としてリレー走者と走高跳で活躍されました。

神戸工専(現神戸大学)卒業富士電機在職中に、初期の新幹線の重要部品である変圧器の設計に参画されました。

会員よりの清水様追悼文

小学校時代、素晴らしい脚力を見せて下さり、今でも頭に浮かぶほどです。

不測の交通事故に遭われて療養生活が続き、ご出席が途絶えたのは惜しまれます。

二十一回生 芦田 和雄様 13・05・18没

21平田坦さんによる本誌追悼文「芦田和雄君を偲ぶ」をご覧下さい。

二十八回生 岡林(立木)祐子様 12・03・24没

立木さんのところの双子ちゃんを覚えていらっしゃる方は沢山おられることと思います、河邊さんの日曜学校へ行く途中、ご自宅の前を通ると全く見分けの付かないお二人をよく見かけました。

岡林祐子様は双子の姉で長らく千里山会の会員でしたが、ここ数年体調を崩され総会に出席されることはなく、お会い出来なかつたのが悔やまれます。編集部謹んで六人の方々のご冥福をお祈りいたします。

特に追悼者名を記載している以外は14柿崎眞吾様にご執筆頂きました。

総会では忘れず話をして頂き嬉しいことでした。(昔一緒に走った事もありました)。17宮中 博

十四回生 田中(宇野) 博様 12・12・23没

会誌十一号巻頭文に、昭和四五年十月田中様名で千里山会の原点になった東京同窓会の趣意書と案内文が載っており、その時の旗揚げの様子が推察できます。

また一九九五年の復活第二回の同窓会は、当時京樽のオーナーであったことから自社の座敷の提供により行われ、これが拡大総会となって本会の基礎づくりにより多大の貢献を残されました。

千二校時代は、当時剣道が義務教育化された時代で、昭和十七年の桜井での小学校対抗府下剣道大会で主力メンバーとして千二校に団体優勝をもたらしました。十年前からご療養生活を続けておられました。

十四回生 竹内(宮中) 市子様 13・01・22没

一九七一年の「千二校同窓生の集い」にご出席、その後一九九四年の復活第一回の東京同窓会から二〇〇四年の千里山会総会まで熱心に参加された草創期からの会員でした。